

旬彩紀行 ふるさとの「今」を訪ねて——18

春の松浦を訪ねて

ふるさとの豊かな「食」と「心」に出会う

松浦市

不老山総合公園に咲き誇るツツジ



**新たなブランドづくりを目指す
アールスメロンの産地**

佐世保市から北へ一時間ほど車を走らせ、佐賀県伊万里市から県境に架かる福島大橋を渡って松浦市福島町に入り、大山公園展望所を訪れた。眼下に広がるのは大小四十八の島々からなるいろは島。その昔、空海が「いろは」四十八文字にちなんだ名付けたと言われ、青い海と緑の島々がつくり出すその絶景に思わず筆を投げたと伝えられている。



大山公園展望所から望む「いろは島」

大山公園展望所から麓に続く斜面を下りていくと、蛙鼻公園にたどり着く。敷地内にはおとぎの国を思わせるような建物があり、美しい花々やハーブが一面に広がっていた。

福島町から海沿いに西へ向かい、御厨町大崎地区にある末武茂善さんのメロンハウスを訪れた。



春の花々が咲きそろう「蛙鼻公園」



末武茂善さん



とろけるような舌ざわりと
甘さが自慢の「松」メロン

末武さんはメロンづくり三十年のベテランで、ながさき西海農業協同組合松浦メロン部会の会長も務める。

松浦市は、県内随一のアールスメロンの産地。春と秋冬の年二回栽培されるアールスメロンの中でも糖度十四度以上の「松」メロンは、関東や関西で高い評価を得ている。

春作メロンは十二月の土づくりから始まる。翌年一月下旬からは約十日おきに苗を植え付け、生長とともに芽を摘み取る「芽かき」を行っていく。そして、苗一本につき一個のメロンを付けて生育をコントロールしながら玉の大きさを揃え、ネットと呼ばれる白い編み目模様を浮かび上がらせていく。

末武さんは、「メロンづくりで大切なのは、水、温度、湿度の管理です。毎日、苗の状態や編み目の入り方を見ながら調節していくんです。」と語る。

松浦メロン部会では、昭和五十一年の発足当初から一元集荷による共同選果、共同販売を実施する一方、ハウス内の温度管理の省力化を図るために、市の補助を受けて自動換気システムを導入。さらに、メロン堆肥生産組合を設立してメロン栽培に適した独自の堆肥を供給するなど、産地づくりに向けたさまざまな取り組みを進めている。

そして、今年から新しいブランドメロンを販売する予定だという。

「松」メロンの中からさらに選りすぐった高級品を『爽潤果』というブランド名で販売します。ぜひ、多くの皆さんに味わっていただきたいですね。」と末武さん。とろけるような舌ざわりと甘さが自慢の「松」メロンは、五月初旬から八月中旬にかけて全国に出荷されていく。



一元集荷による共同選果

【ながさき西海農業協同組合 松浦地区営農経済センター】
松浦市志佐町浦免928 TEL.0956-72-1144